

小麦情報

秋田地域振興局 農林部 農業振興普及課

No.3

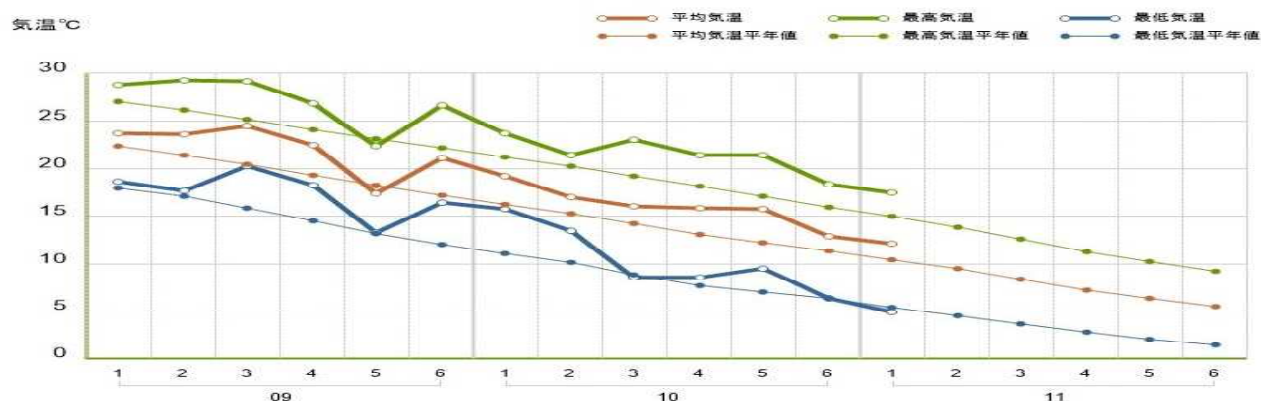
Tel. 018-860-3410

Fax. 018-860-3834

排水対策の徹底で越冬前の生育確保を！

1 気象経過(R6. 9月～11月)

アメダス大潟



〈概況〉

9月から11月にかけて、連続した降雨が少なかったため、播種作業が順調に進みました。また、同期間中の気温が平年よりも高かったことから、小麦の出芽後の生育は順調でした。

仙台管区气象台から11月7日に発表された1ヶ月予報によると、向こう1ヶ月の気温は平年よりも高く、降水量は平年並か少なく、日照時間は多い見込みです。

また、気象庁から9月24日に発表された寒候期予報では12月～2月の降水量・降雪量は平年並か多い見込みのため、適切な排水対策や雪腐病対策をしましょう。

2 R7年産小麦の生育状況(R6年11月1日現在)

表1 R7年産調査ほ(銀河のちから4地点)の生育調査結果(情報提供:大湊村農協)

	草丈 (cm)	莖数 (本/m ²)	葉数 (葉)	株数 (株/m ²)
R6年産	23.8	731	5.79	296.5
過去5年平均	21.1	685	5.35	236.1
過去5年平均比・差(%・±)	113%	107%	+0.44	126%

11月1日の調査では、銀河のちからの草丈は23.8cm(過去5年平均比:113%)、莖数は731本/m²(同比:107%)、葉数は5.79葉(同差:+0.44葉)株数は296.5株/m²(同比:126%)でした。播種後の気温が高かったことや連続した降雨が少なかった影響で平年よりも草丈は高く、莖数が多くなっています。越冬前に有効莖がほとんど決まるため、湿害や出芽不良の影響で莖数が少なくなっているほ場では積雪前に追肥を行い、有効莖を確保しましょう。今後は気温の低下に伴い、小麦の生育も緩慢になるため、早めの追肥を心がけましょう。追肥の目安は、窒素成分で2kg/10a程度です。

3 排水対策

排水不良は湿害による生育量の低下や、病害の発生を助長します。積雪前に、ほ場に明きょを設置し、降雨後や融雪直後の排水に努めてください。既に明きょを施工しているほ場では、排水路につながっているか、停滞水がないか、溝が詰まっていないかを再確認しましょう。

4 雪腐病について

根雪期間が100日を超えると雪腐病の被害が多くなります。特に、早播、窒素肥料の多用、リン酸肥料の不足の時に発生が多くなります。雪腐小粒菌核病は排水不良な粘質土壌と砂質土壌に、紅色雪腐病は排水良好な黒ボク土壌に多く見られます。特に、水田転作での栽培においては、排水対策を十分に実施する必要があります。

表2 雪腐病の防除薬剤

	薬剤名	希釈倍数	散布液量	散布時期
紅色雪腐病	トップジンM水和剤 フロンサイドSC	2000~2500倍 1000倍	100L~150L /10a	根雪直前に1回散布する。散布後、根雪までの期間が長かったり、多量の降雨があった場合には再散布を行う。
雪腐小粒菌核病	シルバキュアフロアブル※	2000倍		
	バシタック水和剤75	750~1500倍		
	フロンサイドSC モンカット水和剤	1000倍 400倍		

※シルバキュアフロアブルの根雪前の使用は1回まで

5 鳥害対策について

融雪後(2月下旬~3月中旬)の小麦ほ場では、ガン(渡り鳥)の群れが飛来し、麦類を食害します。爆音機やテグス、防鳥テープ等をほ場に設置し、鳥害による被害を軽減しましょう。爆音機は、電池やガスの残量、ノズルのつまり等を確認してから設置しましょう。